

安全管理部門の活動 ～安全ラウンドについて～

医療安全管理者 中島 輝久

安全な医療を提供することは医療機関に課せられた最大の責務です。当院では医療安全の確立を目指し、さまざまな職種で構成される安全管理部門を組織しています。

安全管理部門の活動は、主に以下のものが挙げられます。

- 院内で生じた医療事故や、事故に至りそうになった事例の情報を収集し、職員に周知する。
- 収集した情報を基に事例の分析を行い、再発防止策を立案する。
- 立案された対策が実践されているか、また効果的に機能しているか評価する。
- 関連機関から発信される医療安全にかかわる情報を職員に伝達する。
- 職員に対し、医療安全の確立に必要な知識や技術の習得を目的とした研修を行う。

今回は安全管理部門の活動のなかから“安全ラウンド”をご紹介します。

医療施設は医師・看護師・医療技術職・事務職員といった、多くの職種で成り立っています。各々、職種や所属部署が違えば視点も変わります。

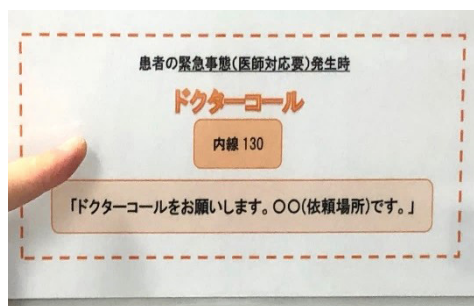
院内の多職種の各部署を巡視(ラウンド)することで、様々な視点から改善すべき点はないか、定められた安全対策が正しく実施されているか等の評価を行うのが安全ラウンドの目的です。

問題点が指摘されれば、対策を講じ、その対策が効果的に機能しているか確認のためにラウンドを行う。このサイクルを繰り返すことで、安全な医療を提供できる環境を整備・維持します。

院内多職種の各部署を巡視して安全確認します



安全ラウンドの流れ



また、問題点を指摘するだけでなく、医療安全にかかわる良い取り組みは、他部署でも取り入れることもあります。

一例を挙げると、当院では緊急事態発生時に医師を緊急招集する“ドクターコール”という仕組みがあります。ある部署で、電話にドクターコールの要請手順を記した用紙が貼ってありました。これならば、緊急事態の混乱した状況でも、

慌てずにドクターコールの要請ができます。この取り組みを院内に周知したところ、他の部署でもこの試みを真似て、要請手順を電話付近に表示したり、院内用 PHS に用紙を貼ったりと、確実にドクターコールを要請できる体制を整備しました。

このように職種や所属部署を超えた活動により、院内に潜む問題点の改善や、安全確立のための取り組みを積極的に取り入れることで、皆様に安全で質の高い医療を提供できるよう励んでいきたいと思えます。